

竜王町まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成 28 年3月

竜王町

【目 次】

はじめに.....	1
第1章 総合戦略の策定にあたって.....	2
1. 総合戦略の位置づけ.....	2
2. 対象期間.....	2
第2章 総合戦略の基本方針.....	3
1. 総合戦略の推進方針.....	3
2. 総合戦略推進の視点.....	3
3. 推進方法.....	4
第3章 総合戦略の方向.....	5
1. 消滅回避戦略 14,000人をめざす戦略.....	5
2. 未来創生戦略 人口減少抑制・人口構造の変化に向けた戦略.....	6
3. 施策体系.....	7
第4章 施策の展開.....	8
1. 消滅回避戦略 14,000人をめざす戦略.....	8
消滅回避目標1 14,000人が暮らすまちをつくる ～定住に向けた受け皿づくり～.....	8
消滅回避目標2 「働く」「暮らす」希望がかなうまちをつくる ～人を呼び込む雇用の創出と町の魅力発信～.....	12
2. 未来創生戦略 人口減少抑制・人口構造の変化に向けた戦略.....	17
未来創生目標1 竜王町で働く喜びを創生する ～産業の振興による安定したしごとをつくる～.....	17
未来創生目標2 「ふるさと竜王」を創生する ～結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる～.....	25
未来創生目標3 幸せな暮らしを創生する ～いつまでも安心して暮らせる活力あるまちづくり～.....	31
おわりに.....	37

はじめに

日本全体が人口減少社会に突入している中、地方では消滅可能性自治体の発生が予測されるなど、より深刻な状況となっています。本町でも 1955 年（S30）の竜王町誕生から人口減少の時期を経て、1974 年（S49）の大規模工場の開業以降、人口は増加傾向にありました。しかし、1995 年（H7）からは再び人口減少が続いており、同時に少子高齢化が急速に進行していることもあり、日本創成会議から消滅可能性自治体であると発表されるなど、中長期的な視点において、まちの活力やコミュニティの維持について、難しい局面を迎えています。

国では、2014 年（H26）9 月に、まち・ひと・しごと創生に関する「基本方針」が決定されました。この中で、①若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、②「東京一極集中」の是正、③地域の特性に即した地域課題の解決の 3 点を基本的視点とした上で、①地方への新しいひとの流れをつくる、②地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする、③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る、⑤地域と地域を連携する、という 5 つの検討項目が示されています。

また、2014 年（H26）12 月に、人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下、「国の長期ビジョン」という。）および、今後、5 か年の政府の施策の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「国の総合戦略」という。）が閣議決定されました。2015 年（H27）12 月には、地方創生の現状を踏まえ、国の総合戦略の改訂が行われています。

本町では、人口減少の抑制に着目し、2011 年（H23）3 月に策定した「第五次竜王町総合計画」に基づき、「“ひと” 育ち みんなで煌く 交竜の郷」の実現に向けて施策を進めてきました。しかし、住宅の整備が大きく進まなかったことから、周辺市町に人が流れている状況を改善することができず、人口減少に歯止めをかけるまでには至りませんでした。

そのため、人口に関する現状を再分析するとともにこれまでの課題を整理し、人口の将来展望として、短期目標では 2020 年（H32）に 14,000 人、中長期目標では 2040 年（H52）に 12,000 人、2060 年（H72）に 10,000 人と定めた「竜王町人口ビジョン」（以下「人口ビジョン」）を策定しました。

この人口ビジョンに基づきながら、消滅可能性自治体からの脱却をめざし、子や孫の世代も安心して暮らしていける地域を将来に残すため、竜王町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）を策定しました。

※消滅可能性自治体とは、2040 年（H52）に 20～39 歳の女性の人口が 5 割以上減少すると推計される自治体のこと。

第1章 総合戦略の策定にあたって

1. 総合戦略の位置づけ

～消滅可能性自治体からの脱却をめざし、子や孫の世代も 安心して暮らしていける地域を将来に残すための戦略～

総合戦略は、「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づく「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」であり、国・県の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案して策定したものです。また、本町における人口の現状と今後の展望を示した「人口ビジョン（＝目標人口 2020年（H32）：14,000人、2040年（H52）：12,000人、2060年（H72）：10,000人）」を踏まえて策定しています。そのため、**2020年（H32）に14,000人を達成するための短期的・集中的目標（消滅回避戦略）と、人口減少抑制や人口構造の変化への対応を図る中長期・継続的目標（未来創生戦略）を定め、計画的に取り組んでいきます。**

また、総合戦略は、本町の最上位計画である竜王町総合計画との整合を図りつつ、長期的な視点に立って、人口減少問題の克服・地方創生の目的を達成するための具体的な目標、施策を位置づけるものです。総合計画や各分野の個別計画において、本町の総合的な振興・発展をめざす中で、本戦略の目的を達成する観点から、戦略的、一体的に施策を推進するものとします。

さらに、本町では、行政をはじめとして、**町民や地域、企業、関係機関・団体など町全体で人口減少の課題を共有し、協働により推進する計画**として位置づけます。

国	長期ビジョン	2060年（H72）に1億人程度の人口を確保する中長期展望を提示
	総合戦略	人口減少と地域経済縮小の克服、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立をめざし、2015（H27）～2019年度（H31）（5か年）の政策目標・施策を策定
地方	地方人口ビジョン	各地域の人口動向や将来人口推計の分析、中長期の将来展望を提示
	地方版総合戦略	各地域の人口動向や産業実態等を踏まえ、2015（H27）～2019年度（H31）（5か年）の政策目標・施策を策定

2. 対象期間

総合戦略の期間は、2015年度（H27）から2019年度（H31）までの5年間とします。なお、社会環境の変化、施策の進捗など状況変化があった場合は、必要に応じて見直します。

第2章 総合戦略の基本方針

1. 総合戦略の推進方針

～「オール竜王」で強力に推進する～

第五次竜王町総合計画では、「人（人口）」に焦点を当て「3つの人口戦略」と「5つのプロジェクト」を位置づけ、子育て・子育環境の向上や雇用対策、町民の利便性の向上、住宅施策、土地利用等に積極的に取り組んできました。

この方向性を踏まえ、本町の資源を最大限に活用しながら、人口減少に歯止めをかけ、地域経済力を高める具体的かつ効果的な取り組みをより積極的に推進し、本町の創生を果たします。

この戦略的取り組みを、町民、地域、企業、教育機関、金融機関、団体、行政などが共有し、それぞれが主体性を持ちながら、課題解決と成果をもたらす新たな施策を展開していくことが重要であり、国の支援制度を積極的に活用し、県や近隣市町とも連携して取り組んでいくものとします。

2. 総合戦略推進の視点

～長期的・継続的な視点で、地域資源を活かし、結果を出す～

国の総合戦略を踏まえ、本戦略の推進に当たり、以下の点に留意し、効果的な施策の推進を図ります。

①自立性

対症療法的なものにとどまらず、各施策における構造的な問題に対処し、行政、民間事業者、個人等の自立につながる取り組みを推進する。

②将来性

本町の将来を主体的に展望し、前向きに取り組む施策に重点を置く。

③地域性

本町の実態に合った施策を実施し、本戦略に沿った施策を実施できる枠組みを整備する。

④直接性

限られた財源や時間の中で、最大限の成果を上げるため、ひとの動きやしごとの創出、まちづくりに直接関係する施策に集中的に取り組む。

⑤結果重視

明確なPDCAメカニズムの下に、短期・中期の具体的な数値目標を設定し、政策効果を客観的な指標により検証し、必要な改善等を行う。

3. 推進方法

(1) 協働の推進体制

～それぞれの役割を果たし、連携により推進する～

① 行政 《全体を統括し、調整・連携を図る》

本戦略の推進に当たっては、それぞれの施策の担当課が主体的に推進しつつ、連携しながら組織横断的に取り組んでいく必要があります。

そのため、庁内の推進組織である「竜王町まち・ひと・しごと創生本部」と併せて、町内各界各層の皆さんとともに推進・検証をしていくため、外部委員が参画する検証機関である「竜王町まち・ひと・しごと創生推進委員会」や町議会とも連携し、推進を図ります。

さらに、本町のみでは対応できない課題等においては、必要に応じて国や県、近隣市町等とも連携を図ります。

② 町民・地域団体等 《地域の未来のために、主体的に考え、動く》

「まちづくりの主役は町民である」という認識を持ちながら、主体的にまちづくりに参画することが期待されます。

そのためには、町民一人ひとりが現在住んでいる地域への関心を高め、魅力や課題を把握した上で、子や孫の世代が暮らし続けられる竜王町を築くため、地域活動やまちづくりに積極的に参画することが求められます。

③ 企業・事業所 《「しごと」を生み、得意分野をまちづくりに活かす》

町内に拠点を置く企業・事業所については、本町における「しごと」の創生に大きな役割を担うだけでなく、町民・地域とともに地域社会を構成する一員として、社会的責任のもと地域との調和を図り、自らの得意分野を活かし、まちづくりの推進に寄与することが期待されます。

(2) 進行管理

～PDCAにより常にさらに良い方策を練る～

本戦略においては、政策分野ごとの基本目標と具体的な施策を示し、各施策の効果を客観的に検証できる指標（重要業績評価指標（KPI））を設定し、PDCAサイクルにより、実効性を担保します。

また、計画策定（Plan）、推進（Do）、点検・評価（Check）、改善（Action）のPDCAサイクルにおいても、町民や地域、団体、町議会、産・官・学・金・労・言の各分野の関係機関・団体等、多様な主体が関わる機会を設けることで、高い実効性を確保します。

第3章 総合戦略の方向

～チャンスを活かし、未来を創生する～

本町では、現在、2017年度（H29）末を完成の目標とした滋賀竜王工業団地の整備を進めており、この事業は、人口減少に歯止めをかけることができる最大のチャンスであります。そのため、総合戦略においては、このチャンスを最大限に活かして、短期的・集中的に取り組んでいく施策と子や孫の世代が暮らし続けられる竜王町の未来を築いていくために中長期的・継続的に取り組んでいく施策を明確にするため、本町独自の取り組みとして、「消滅回避戦略」と「未来創生戦略」を設定します。

1. 消滅回避戦略 14,000人をめざす戦略

～最大で最後のチャンス逃さないため～

「人口ビジョン」において示した目標人口2020年（H32）に14,000人の実現に向けて、各施策に掲げる取り組みを横断的に先導する短期的な目標として、定住促進と町の魅力発信に係る取り組みを位置づけ、まち・ひと・しごとの好循環を生み出していきます。

消滅回避目標1 14,000人が暮らすまちをつくる

～定住に向けた受け皿づくり～

人口減少に歯止めをかけるためには、住み続けたいまちづくりにより転出を抑制するとともに、住みたくなるまちづくりにより転入を促進し、定住化を進めることが必要です。しかし、本町では「住みたい、住み続けたい」という希望をかなえることができる受け皿が不足しています。そのため、町内企業の就業者をはじめ、若者や子育て世代、UIJターン者、高齢者などそれぞれのニーズに合わせた住宅の整備に取り組めます。また、生涯を通じて安心して暮らせるよう、機能的で利便性の高いまちづくりを推進します。

数値目標	基準値	目標値
受け皿の確保数(人)	0(H26度)	2,250

消滅回避目標2 「働く」「暮らす」希望がかなうまちをつくる

～人を呼び込む雇用の創出と町の魅力発信～

企業立地による雇用の創出を図るとともに、豊かな自然や県下有数のものづくり地域、充実した道路交通網、特産品等、本町の魅力を活用し、企業等と連携しながら新たな交流を生み、地域内外へ積極的に発信することで、町への移住促進や認知度の向上、地域への愛着を育みます。併せて、それぞれの地域において若い世代や移住者等が参加しやすいコミュニティのあり方を考え、現状に即した仕組みの構築に取り組めます。

数値目標	基準値	目標値
転入者数(企業寮除く)(人)	331(直近3年間の年平均値)	720

※企業寮：竜王町のまちづくりを考えるうえで考慮が必要となる町内にある大手自動車工場が設置する従業員用の寮を表しています。これ以降も同様。

2. 未来創生戦略 人口減少抑制・人口構造の変化に向けた戦略

～子や孫の世代のための未来の創生～

「消滅回避戦略」に基づく、チャンス逃さないための短期的・集中的取り組みの推進と併せ、中長期的・継続的な取り組みとして、安定したしごとづくり、若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望がかなうまちづくり、活力あるまちづくりに係る取り組みを位置づけ、2040年（H52）：12,000人、2060年（H72）：10,000人の目標の達成につなげます。

未来創生目標1 竜王町で働く喜びを創生する

～産業の振興による安定したしごとをつくる～

都市部や近隣市町への人口流出を是正するとともに、若者の日常生活における経済的な不安を軽減するためには、町内立地企業との連携や農業をはじめとする地域産業を最大限に活用し、多様な雇用の創出を図ることが重要です。そのため、本町の強みを活かした商工業や農業等の振興を図るとともに、町内雇用の拡大を図り、多様な働く場を創出することにより、若者が安心して働くことができる環境の整備を推進します。

数値目標	基準値	目標値
産業振興条例による奨励措置申請事業者数	0(H26度)	7

※産業振興条例：竜王町産業振興にかかる特別措置に関する条例(2011年（H23）4月1日施行)

未来創生目標2 「ふるさと竜王」を創生する

～結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる～

若い世代の未婚化の進行や出生率の低迷を改善するためには、結婚観や子育て・教育に係る多様なニーズに対して柔軟に対応する必要があります。男女の出会いの場づくりや、子どもを産み育てやすい環境づくり、教育環境の充実など、結婚から妊娠、出産、子育てまでの切れ目のない支援や教育環境の整備を行い、若い世代の結婚・出産、子育て、教育に関する希望の実現を図ります。

数値目標	基準値	目標値
出生数(人)	97(H25.10.1時点)	109

未来創生目標3 幸せな暮らしを創生する

～いつまでも安心して暮らせる活力あるまちづくり～

時代のニーズに合ったまちづくりを推進するためには、移住・定住者の増加を図り、その受け皿となる住環境を整備するとともに、地域への愛着を育むことが求められています。一方で、将来にわたって持続可能なまちづくりを推進する必要もあることから、生活の利便性の向上や地域コミュニティの維持、効率的・効果的な行政運営を推進します。

数値目標	基準値	目標値
竜王青年団加入率(%)	13.7(H26度)	15.0

3. 施策体系

消滅回避戦略

消滅可能性自治体からの脱却に向けた、定住人口の確保

将来人口目標

2020年(H32)
14,000人

14,000人をめざす戦略

消滅回避目標 1

14,000人が暮らすまちをつくる

～定住に向けた受け皿づくり～

- (1) ニーズに合わせた住宅の整備
- (2) 魅力あるまちづくり

消滅回避目標 2

「働く」「暮らす」希望がかなうまちをつくる

～人を呼び込む雇用の創出と町の魅力発信～

- (1) 滋賀竜王工業団地をはじめとした企業誘致の推進による雇用の創出
- (2) 地域内・外の若者への魅力発信
- (3) 開かれた地域社会への意識醸成

未来創生戦略

めざすべき方向性

- ①人口減少に歯止めをかける
- ②人口減少を見据えたまちづくり
- ③人と人、自然とともに安心して暮らし続けられる竜王町らしいまちづくり

将来人口目標

2040年(H52)
12,000人

2060年(H72)
10,000人

人口減少抑制、人口構造の変化に向けた戦略

未来創生目標 1

竜王町で働く喜びを創生する

～産業の振興による安定したしごとをつくる～

- (1) 町内立地企業への支援による安定的な雇用の創出
- (2) 商工業の振興と新たな取り組みへの挑戦
- (3) 特色ある農業の推進と担い手の確保
- (4) 地域資源を活かした観光産業の振興

未来創生目標 2

「ふるさと竜王」を創生する

～結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる～

- (1) 妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援の充実
- (2) 若い世代の暮らしの安定
- (3) 郷土愛を育む教育の推進

未来創生目標 3

幸せな暮らしを創生する

～いつまでも安心して暮らせる活力あるまちづくり～

- (1) 安心・安全な生活環境の確保
- (2) 活気ある交遊機会の創出
- (3) 移住・定住の促進

第4章 施策の展開

1. 消滅回避戦略 14,000人をめざす戦略

消滅回避目標1 14,000人が暮らすまちをつくる

～定住に向けた受け皿づくり～

(1) ニーズに合わせた住宅の整備

《現状と課題》

本町は、毎年、大手自動車工場の企業寮への若年層の転入があるものの退寮後の町外への流出、また雇用の場が拡大している中にありながら就業者の定住につながっておらず人口増加に向けたチャンスを逃してきました。今後、滋賀竜王工業団地をはじめとしたさらなる新規定住者が見込まれる大きなチャンスがある中、定住に向けた受け皿を用意することで、こうした方々が竜王町に住み続ける流れを創出することが必要です。

《取り組みの方向性》

移住・定住促進のため、実現性の高い地域での住宅整備を誘発するためのインフラの整備、公設住宅の整備に向けた研究、定住や地域の活性化につながる資源として空き家や空き区画の活用を図ります。良質で取得しやすい住宅や戸建て・集合住宅など多様な形態の住宅を供給することで、町内企業の就業者をはじめ、若者や子育て世代、UIJターン者、高齢者など様々な定住希望者に対応できる受け皿の確保を図ります。

【めざす姿】

竜王町に住みたい・住み続けたいという人の希望に応える住まいの受け皿ができており、本町が、新たに定住した町民にとってのふるさとになっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
新規住宅戸数(戸)	— (H26度)	885
活用した空き家の件数(件)	— (H26度)	43

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
①町有地の活用 住宅供給を確保するために、公設住宅の整備手法を研究するとともに特性に応じた町有地の有効活用を行います。
②住宅整備に向けたインフラ整備 住宅整備を誘発するため、推進区域を決め、インフラの先行的な整備を進めます。

主な取り組み

③空き家の活用の推進

増加傾向にある空き家の有効活用を図るため、所有者に対して空き家の提供に向けた意識醸成に取り組みます。

④空き住宅区画への誘導

空き区画を有効活用できるよう、定住希望者に対して、空き区画の情報提供とニーズとのマッチング等を積極的に行います。

【関係課】 政策推進課・総務課・生活安全課・建設計画課・上下水道課

町民に期待される役割

○空き家の所有者は、住宅ストックを地域資源として活用することへの理解を深め、移住者の受け皿として活用します。

【主な事業】

- 町道殿山線道路整備事業
- 定住化促進事業
- 竜王若者交竜 RSNS（リアルなソーシャルネットワーク）拠点づくりプロジェクト

(2) 魅力あるまちづくり

《現状と課題》

竜王町は、町域の大半が市街化調整区域、農振農用地であることから、住宅整備に向けては法的な規制が障壁となっており、住宅ニーズへの対応が困難な状況が続いています。市街化区域への編入や地区計画の活用、農地転用などによる柔軟な土地利用を実現することが必要です。

《取り組みの方向性》

現在町外に住んでいる人が町内に住みたくなるようなまちの整備を進めるため、住宅ニーズの把握や、住宅整備を促進するための市街化区域への編入、町民の意向に基づいた地区計画の策定を推進します。また、町内と町外で離れて暮らす家族が町内で一緒に暮らせるよう、近居・同居を促すための支援の充実を図ります。

【めざす姿】

地域の声がまちづくりに反映され、誰もが住みたくなる魅力的なまちとなっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
地区計画策定済み地区数(地区)	1(H26度)	27
近居・同居のために町内に移住した件数(件)	6(H27度見込)	10

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
①住居系市街化区域の編入 近江八幡八日市都市計画区域の定期見直しにあたり、将来を見据えた住宅整備の実現性の高い区域の住居系市街化区域の編入をめざします。
②地区計画策定の推進 町民の意向を踏まえた、地域特性に基づいたまちづくりを進めるため、町民への意識醸成を行いながら、地区計画の策定を推進します。
③住宅ニーズの把握 年代や家族構成などが異なる、様々な定住希望者を受け入れることができるよう、住宅ニーズの把握や住宅整備の手法を検討します。
④移住・定住の促進に向けた支援の充実 移住・定住のきっかけとなるよう、同居・近居支援に向けた住宅支援や相談窓口の設置、30歳代以降の同窓会など町出身者の里帰りや交流活動への働きかけを行います。
⑤宅地整備に向けた働きかけの推進 宅地整備を円滑に進め、移住・定住希望者に住宅提供ができるよう、宅地整備にかかると地域活性化の重要性を働きかけ、地域での議論を誘発します。

主な取り組み

⑥住宅整備の推進に向けた法規制対応

住宅整備を進める上で法規制が障害となっている現状を踏まえ、あらゆる手法を検討しながら、法規制への対応を進めます。また、農業後継者をはじめとして、地域への定住の希望をかなえるため、その実現に向けた支援をします。

⑦生活拠点の集約化の推進

地域における人口減少を想定する上で、生活拠点の集約化を進めることにより利便性を高め、各施設の相乗効果・相互利用による地域の活性化を進めます。

【関係課】 政策推進課・産業振興課・建設計画課・生涯学習課

町民に期待される役割

○地区計画の策定や、家族の同居・近居の呼びかけなど、新規移住者の増加に向けた取り組みへの協力を行います。

【主な事業】

- 都市計画事業
- 地区計画等策定事業
- 定住化促進事業
- 定住促進住宅新築・リフォーム助成事業
- 竜王若者交竜 RSNS（リアルなソーシャルネットワーク）拠点づくりプロジェクト

消滅回避目標2 「働く」「暮らす」希望がかなうまちをつくる ～人を呼び込む雇用の創出と町の魅力発信～

(1) 滋賀竜王工業団地をはじめとした企業誘致の推進による雇用の創出

《現状と課題》

現在、滋賀竜王工業団地の整備を進めており、また他の工業用地への企業立地など町内において、さらに大きな雇用を生み出すことが想定できることから、研究・開発部門などを含めた多様な職種を有する企業を誘致することで、これまで以上に多様な雇用の確保を図ることが必要です。また、こうした新たな企業には、町内立地してもらっただけでなく、地域と企業の連携、企業間の連携などを含めた地域社会への貢献などの役割も期待されます。

《取り組みの方向性》

滋賀竜王工業団地をはじめとして、企業へのPRや訪問、優遇策等により、多様な職種や業種の企業誘致をめざすとともに、進出企業への雇用の創出を図ることで、多様な働き方ができる雇用環境を確保し、若者の町内での就労と定着を促進します。

また、竜王町の雇用状況や魅力を企業と行政が一体となって伝えていくことで、町内への移住や町内企業への就職の増加を図ることができるよう、町内企業との連携のもと、まちの情報発信を強化します。

【めざす姿】

町外の誰もが竜王町に住みながら働きたいと思うような、多様な職種・業種の魅力的な企業が多数立地しているまちとなっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
町内への進出企業数(社)	0(H26度)	7
新規進出企業による就業者数(人)	— (H26度)	1,700

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
<p>①工業団地の整備による雇用の創出</p> <p>工業団地へ進出する企業への雇用を促進することにより、安定したしごとを創出します。</p>
<p>②町内に進出した企業への優遇制度の拡充</p> <p>企業における重要拠点として本町が選ばれるよう、優遇制度の拡充を図ることにより、企業誘致の推進を図ります。</p>

主な取り組み
<p>③地元雇用の推進</p> <p>町内に立地する企業への就労機会を創出するため、町内で面接会を開催するなど、地元雇用に推進します。また、学生だけでなく子どものうちから就労意向を醸成するため、教育機関との連携を図ります。</p>
<p>④Uターン就職の支援の充実</p> <p>工業団地への進出企業をはじめ、町内企業・事業所の求人情報を町内外に発信するとともに、Uターン就職に向けた支援の充実を図ります。</p>
<p>⑤まちの情報提供の拡充</p> <p>観光面だけでなく産業面においても町内外に本町の魅力を発信できるよう、企業と連携した情報提供を行うことで、まちの情報提供の強化を図ります。</p>
<p>⑥企業との交流活動の活性化</p> <p>地域の企業への関心を高めるとともに、企業の地域貢献を促進できるよう、地域と企業やその就業者との交流活動を推進します。</p>
<p>⑦定住住宅の支援の充実</p> <p>働く場だけでなく生活する場としても本町を選んでもらえるよう、町内企業の就業者を対象とした住宅支援の充実を図ります。</p>

【関係課】 政策推進課・産業振興課・建設計画課・工業団地推進課・学務課

町民に期待される役割
<p>○地元企業で働くことが職住近接となり、通勤時間の短縮による時間の有効活用など、メリットを活かしたよりよい暮らしを送ることで定住し続けます。</p> <p>○地元企業との交流活動に参加することで、地域の産業に興味・関心を持ち、ともににぎわいの創出に取り組みます。</p>

【主な事業】

- 地区計画等策定事業
- 社会資本総合整備計画「産業基盤を核とした人・モノの交竜が拡がるまちづくり」
- 竜王町産業振興にかかる特別措置に関する条例
- 定住促進住宅新築・リフォーム助成事業

(2) 地域内・外の若者への魅力発信

《現状と課題》

竜王町では、進学・就職による町内出身の若者の流出が続いており、人口減少、出生率の低下等の要因となっています。流出に歯止めをかけることや、U I J ターンの促進を図るためには、町外の若者も含めて、竜王町で暮らすことの魅力を伝えることが必要です。

《取り組みの方向性》

町内の若い世代に対して、自分の住む地域の良さや豊かな自然、歴史、文化、産業等について理解を深める機会を提供し、まちへの愛着や誇りを醸成します。また、町外の若い世代に対しては、竜王町での暮らしの素晴らしさや雇用に関する情報等について発信します。

【めざす姿】

竜王町に住んでみたいという若者や、愛着のあるこのまちにいつまでも住み続けたいという若者が多く集まるまちとなっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
町ホームページアクセス数	98,633(H26)	122,000
Uターン移住者数(人)	123(H26 度)	153

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
①まちの魅力の発信力強化 本町への関心を持ってもらえるよう、様々な情報媒体を活用することにより、若者をターゲットにした、まちの魅力の発信力強化に努めます。
②町内在住の若者への定住意識の醸成 町内への定住につなげられるよう、若者に対してまちづくりや地域コミュニティ活動への参加を促すとともに、将来的な親との同居・近居の意識を醸成することで、定住意識を高めます。
③既存施設と連携した新しい魅力づくり 2つの重点「道の駅」をはじめ、スポーツ施設や商業施設など、町内に立地する既存施設間の連携を強化することで、新たな特産品の開発や交流イベントの開催など、地域の新しい魅力づくりを推進します。

【関係課】 政策推進課・産業振興課・建設計画課・学務課・生涯学習課

町民に期待される役割

- 家族や同級生、知り合いなどの口コミを通じ、竜王町の暮らしの魅力を広めていきます。
- 若い世代の地域コミュニティ活動への参加を促します。

【主な事業】

- 若者・子育て応援情報発信事業
- 竜王若者交竜 RSNS（リアルなソーシャルネットワーク）拠点づくりプロジェクト
- 社会教育関係団体補助事業、青少年育成推進員設置事業、社会教育指導員設置事業
- まちづくり活動支援事業

(3) 開かれた地域社会への意識醸成

《現状と課題》

竜王町では、都市部に比べ、子ども会、青年団、壮年会、老人クラブなど、年代別の組織や、自治会等の地域コミュニティの活動が活発に行われています。一方で、地域と町内企業で働いている人等との接点が少ないなど、新規移住者を受け入れていくにあたっては、開かれた地域社会を構築していく必要があります。

《取り組みの方向性》

地域コミュニティの活力を高めるため、若者や女性および移住者等を温かく受け入れ、充実した生活や子育て、地域活動をサポートできるよう、地域の意識の醸成とともに現状に即した受け入れ体制の構築を進めます。

【めざす姿】

新しく竜王町に移り住んだ人が町内のどこに住んでも温かく受け入れられ、すぐに地域の一員として安心して生活できるまちとなっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
地域コミュニティ計画策定率(%)	O(H26 度)	50
27 集落への転入者数(人) (住宅団地、企業寮は除く)	244(H26 度)	325

※27 集落：32 集落から松が丘、美松台、松陽台、希望が丘、さくら団地、企業寮を除いた集落

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
①新しい人の流れに対する地域の意識づくり 地域を対象に新しい人を地域で育てるとともに地域生活をサポートできるよう、地域の新たな体制づくりを促進します。
②新規入居者と地域との交流機会の創出 新規入居者の地域への関心や愛着を高めるため、新規入居者と地域の交流機会の創出を図ります。

【関係課】 政策推進課・産業振興課・生涯学習課・公民館

町民に期待される役割
○町内企業で働いている人や、企業寮入寮者、新規移住者との交流に積極的に参加します。

【主な事業】

- 地域おこし協力隊事業
- コミュニティ支援事業

2. 未来創生戦略 人口減少抑制、人口構造の変化に向けた戦略

未来創生目標1 竜王町で働く喜びを創生する ～産業の振興による安定したしごとをつくる～

(1) 町内立地企業への支援による安定的な雇用の創出

《現状と課題》

竜王町では、大規模製造業や大型アウトレットモール、中小商工業、農業など多様な働く場があり、町内外からの就業者の雇用を支えています。こうした地元企業が安定経営できることで、雇用の確保や職住近接の魅力を活かした定住促進につなげる必要があります。

《取り組みの方向性》

町内に立地している多様な企業に対して、安定的な企業活動に向けた支援の充実を図ることで、若い世代の雇用を確保し、日常生活における経済的な不安の軽減や町内での就労・定着を促進します。

【めざす姿】

年齢や性別、家族構成、職歴等に関わらず、竜王町に住む誰もが希望する働き方に対応できる雇用環境のまちとなっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
竜王町経済交竜会参加団体数	25(H26 度)	32
産業振興条例による奨励措置申請事業者数	0(H26 度)	7

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
①多様な就労者の定着促進 町内企業の人材育成や職場環境の改善に係る情報提供や助言などにより、就労者が年齢や性別等に関わらず、長期的かつ安定的に、やりがいを持って働くことができる環境づくりを支援します。
②町内立地企業による継続的な雇用の創出 町内に立地する企業や工業団地へ進出する企業への雇用を促進するとともに、雇用を創出し、継続的なしごとの創出を図ります。
③町の魅力・独自性を活かした雇用の創出 町内での仕事に魅力を感じてU・Iターンする人が増えるよう、滋賀竜王工業団地をはじめとした進出企業や町内企業・事業所等に対し、町の商工業や農業と連携した独自性の高いしごとづくりを働きかけます。

【関係課】 政策推進課・産業振興課

町民に期待される役割

○町内立地企業に関して理解を深める機会への参加や情報の入手など、地元企業に対する興味・関心を深めます。

【主な事業】

- 竜王町産業振興にかかる特別措置に関する条例
- 竜王町経済交竜会

(2) 商工業の振興と新たな取り組みへの挑戦

《現状と課題》

竜王町では大型アウトレットモールの進出を背景に創業比率全国1位となっており、滋賀竜王工業団地の完成・引き渡しも含め、引き続き新たな雇用が創出されていくことが予想されます。今後は、地域課題の解決に向けた新たな事業展開や起業・創業などの促進も必要です。

《取り組みの方向性》

充実した道路交通網など、本町の強みを活かしながら町内の企業・事業所への支援を充実し、まちの活力の創出を図ります。また、企業・事業所・商工会間の連携強化を図ること、新たな産業の創出や既存産業の高度化をめざします。

【めざす姿】

本町で生産された製造品が全国だけでなく海外でも多く流通しているとともに、国内だけでなく海外からも多くの買い物客が集まるまちとなっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
製造業製造品出荷額(百万円)	646,909(H25)	742,800
創業者数(町内)(人)	0(H26度)	5
ふるさと納税取扱品数(品)	—(H26度)	100

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
①販路開拓に向けた支援の充実 道の駅や観光協会と連携し、農業をはじめとした地域特産品の活性化のため、新たな商品の開発やPRの支援などを行うことで、国や県、近隣市町等と連携しながら、海外も含めた、企業・事業所の新たな販路開拓に向けた支援の充実を図ります。
②企業・事業所・商工会の連携の強化 新たな産業の創出や既存産業の高度化を図り、強固な経済基盤を築くため、企業・事業所や商工会との交流活動の活性化を推進し、地域内6次産業化をめざします。
③中小企業・商工会に対する支援の充実 地域に根ざした中小企業の生産性の向上や、経営基盤の安定化を図るため、設備投資など、経済的な助成をはじめとした支援の充実を図るとともに、商工会に対しても支援を行います。
④創業支援の推進 商工会や金融機関等と連携し、創業に向けたセミナーの開催や経営サポートなど新規創業を推進します。

【関係課】 政策推進課・産業振興課

町民に期待される役割

○地域の魅力ある特産品を優先して購入するとともに、その魅力を家族や知り合いなどの口コミを通じて広げます。

【主な事業】

- 元祖近江牛の竜王が発信するまるごと「スキヤキ」プロジェクト
- ふるさと納税推進費事業
- 竜王町経済交竜会
- 竜王町小規模企業者小口簡易資金貸付

(3) 特色ある農業の推進と担い手の確保

《現状と課題》

竜王町は、日本三大牛である近江牛の発祥の地であり、また豊かな自然と肥沃な大地から近江米、野菜、果樹など農産物の生産が盛んに行われています。一方で、農業従事者の高齢化や後継者不足等、こうした地域資源を引き継いでいくことが困難になりつつあります。農業を中心とした特産品の付加価値を高め、6次産業化など儲かる仕組みづくりにより、後継者の確保をしていくことが必要です。

《取り組みの方向性》

竜王町の基幹産業である農業を軸に、経営規模拡大や高付加価値化による販路拡大、ブランド化を推進し、農業従事者の経営の安定化に努めます。また、農業のさらなる活性化に向けた後継者の確保と高齢化による農業の衰退を防ぐため、道の駅アグリパーク竜王・道の駅竜王かがみの里と関係者が連携し、若者や退職シニア等の新規就農者への支援等を行い、人材の確保・育成を図ります。

【めざす姿】

全国的に有名な竜王ブランドの特産物が町内で多数生産されるとともに、いきいきと農業に従事できるまちとなっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
認定農業者数(人)	48(H26 度)	55
町内2つの道の駅での農産物 販売額(千円)	225,645(H26)	260,000
農事組合法人数(集落営農)	7(H26 度)	19

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
①地域ぐるみによる農業の活性化 経営の安定化のため、地域の多様な主体による組織的な農業への支援を行うことにより、農業の活性化を図ります。
②農業後継者の確保 地域や関係機関・団体等と連携しながら、新規就農に係る支援の充実や本町の農業の魅力を発信することで、農業後継者の確保に努めます。
③特産物のブランド化、販売促進 販売拠点としての道の駅竜王かがみの里、農産物生産拠点としての道の駅アグリパーク竜王が相互に連携することで、新たな特産物を開発するとともに、近江牛など全国的に竜王ブランドのPRを図ることにより、本町独自の収益力の高い農業の確立に努めます。

主な取り組み

④産業間の連携による農業の活性化

多様な企業・事業所が町内に立地している点を活用し、各企業・事業所等との連携のもと、6次産業化も含めた農業のさらなる活性化を図ります。

【関係課】 産業振興課

町民に期待される役割

- 農業体験機会への参加等を通じて町の農業の魅力を知ります。
- 就農意欲がある場合には、積極的に体験機会への参加や情報収集等に努め、就農への理解を深めます。

【主な事業】

- 元祖近江牛の竜王が発信するまるごと「スキヤキ」プロジェクト
- ふるさと納税推進費事業
- 土産土法ビジネスサポート事業

(4) 地域資源を活かした観光産業の振興

《現状と課題》

町内には重点道の駅が2つ、大型アウトレットモール、ドラゴンハット、妹背の里などの施設が多く、名神高速道路竜王インターチェンジによる広域的なアクセスにより、集客力が高いまちであると言えます。こうした地域資源を有効に活用し、連携を図ることで、町内への滞留時間の増加や経済効果を高めていくことが必要です。

《取り組みの方向性》

各種集客施設や豊かな自然や歴史、産業など、本町が持つ特徴的な観光資源をさらに磨き上げ、ブランド化やネットワーク化を進めることでPR効果を最大限に引き出し、魅力ある観光地づくりや観光誘客を推進し、地域産業全体の振興を図ります。

【めざす姿】

年齢・性別・国籍を問わず、訪れる人の興味を刺激し、また訪れたいくなるような魅力的な観光資源があふれるまちとなっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
観光入込客数(人)	1,638,800(H25)	2,060,000

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
①観光施設のネットワーク化の推進 町内の2つの重点「道の駅」をはじめとした観光資源だけでなく、公共施設や商業施設、飲食店等ともソフト面でつなげ、周遊可能な観光ルートの形成に取り組みます。
②観光施設の整備の促進 各観光施設の機能強化により既存施設を観光情報の発信拠点にするとともに、今後増加が見込まれる観光客数に対応できるよう、観光施設の整備促進を図ります。
③体験型観光農業の推進 町外からの人の流れを地域産業の振興や移住につなげられるよう、町外からの利用者が多く、満足度も高い観光農業の推進を図るとともに、インバウンドを活用した観光農業の活性化を図ります。
④インバウンド対策の推進 全国的に増加傾向にある海外からの観光客を取り込めるよう、多言語に対応した観光案内の充実やWi-Fi環境等の充実を図ります。

【関係課】 政策推進課・産業振興課・建設計画課

町民に期待される役割

○意欲や能力を生かし、地域に密着したプログラムの作成や観光ボランティアとしての活動等、着地型観光に参画します。

【主な事業】

- 元祖近江牛の竜王が発信するまるごと「スキヤキ」プロジェクト
- 観光振興強化事業

未来創生目標2 「ふるさと竜王」を創生する ～結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえる～

(1) 妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援の充実

《現状と課題》

竜王町の合計特出生率は 1.51 (H20～H24) と、国よりも高い状況となっていますが、人口の維持に向けたさらなる出生率向上が望まれます。若者が希望する結婚・出産をかなえることができ、子どもがいきいきと健やかに成長できる教育環境づくりが必要です。

《取り組みの方向性》

町に住むすべての世帯が、安心して子どもを産み育てることができるよう、妊娠期から子育て期に至るまで切れ目のない専門的な支援の充実を図ります。また、すべての子どもの健やかな成長のため、教育や発達に関する相談・支援の充実を図ります。

【めざす姿】

初めて子どもを迎え入れる世帯が、地域に温かく支えられ、安心して子どもを産み、育てることができるまちとなっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
出生数(人)	97(H25.10.1 時点)	109
合計特殊出生率	1.51 (H20～H24)	1.6

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
①子育てに関する相談支援の充実 本町で安心して子どもを育てられるよう、地域や関係機関の連携のもと、子どもの成長段階に応じた、きめ細かな相談・支援の充実を図ります。
②産前・産後の支援の充実 健やかな妊娠・出産のため、不妊治療や経済的な支援をはじめとした、産前・産後において包括的な支援を推進するとともに、広域連携による産婦人科医の確保など、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに努めます。
③児童発達支援の充実 発達に課題を抱える子どもや保護者が、いつまでも地域で安心して生活できるよう、専門的で手厚い支援の充実を図ります。

【関係課】 住民課・福祉課・健康推進課・発達支援課・学務課

町民に期待される役割

- 町内事業所においては「子育て応援団」として、子育て家庭が暮らしやすい環境となるようなサービスを提供します。
- 町内医療機関においては、産前・産後医療に関する情報提供や啓発を行います。
- 子どもや地域との交流機会の創出や参加に努め、地域全体で子どもの成長を見守る意識を育みます。

【主な事業】

- りゅうおう子育て応援団事業
- 子育て相談支援事業
- 若者・子育て応援情報発信事業
- ふれあい相談発達支援事業
- 児童発達支援事業

(2) 若い世代の暮らしの安定

《現状と課題》

竜王町では、進学・就職を機に町外に転出する人が多く、また、町内に住み続けている人では、県と比べ、特に男性において未婚化・晩婚化の傾向が見られます。多様な雇用の確保と合わせ、共働きがしやすい環境づくりなど、経済的な安定により、結婚や子どもを持つことへの阻害要因を取り除いていくことが必要です。

《取り組みの方向性》

結婚を望む若者が人生の良きパートナーに出会うことができるよう、若者の出会いの場の創出や結婚を支援する取り組みを推進します。また、子育てに係る経済的な不安を少しでも解消できるよう、経済的支援の充実を図るとともに、子育てと仕事の両立を図ることができる環境整備を進めることで、地域で安心して子育てができるまちをめざします。

【めざす姿】

竜王町に住む若者が安心して人生の節目を迎え、充実した生活を送ることができるまちとなっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
年間婚姻件数(件)	61(H25)	67
子育て支援の満足度(%)	61.4(H27)	65.0

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
①若者の出会いの場の創出 若者の未婚化・晩婚化の改善を図るため、地域の人材や資源を活かした若者の出会いの場の創出を図ります。
②幼稚園や保育園等における保育の充実 子どもの健やかな成長を育むとともに、子育てしながら働きたい保護者を支援するため、幼稚園や保育園における保育や小学生に対する保育事業の充実を図ります。また、子どもが急病の際に一時的に預けることができる体制の強化を図ります。
③子育てに対する経済的支援の充実 子どもの医療費や子育て支援等に対する助成を行うなど、子育て世帯の経済的負担の軽減を図ります。
④若者・子育て世帯への情報提供の強化 情報不足により若者や子育て世帯が孤立しないよう、公共施設等を有効活用しながら、必要な情報の発信力を強化します。

主な取り組み
<p>⑤ワーク・ライフ・バランスの推進</p> <p>地域や企業に対して子育てしながら働きやすい環境づくりをはじめ、産休・育休の取得や職場復帰を行いやすい職場環境への意識醸成を働きかけます。</p>
<p>⑥地域で子育てを支える仕組みづくり</p> <p>子育てにかかる負担を軽減し、子育てを地域全体が応援できるよう、子育て支援の仕組みを構築します。</p>

【関係課】 政策推進課・住民課・福祉課・健康推進課・産業振興課・学務課・生涯学習課

町民に期待される役割
<p>○若い頃から、結婚に向けた自分磨きの場や出会いの場等のライフプラン設計の一助となる機会へ参加します。</p> <p>○夫婦が仲睦まじい、温かい家庭生活を送ることで、子どもの結婚に対する前向きな気持ちを育みます。</p> <p>○町内企業においては、社員のワーク・ライフ・バランス推進に向け、多様な働き方や育児・介護に関する休暇の利用等の職場環境の整備、理解の促進を図ります。</p> <p>○共働き家庭においては、夫婦がお互いを尊重し合いながら役割分担を行うなど、ワーク・ライフ・バランスの実現に努めます。</p>

【主な事業】

- 竜王若者交竜 RSNS（リアルなソーシャルネットワーク）拠点づくりプロジェクト
- 子育て応援軽自動車購入助成事業
- 若者・子育て応援情報発信事業
- 保育所運営費、特別支援保育事業、低年齢児保育保育士等特別配置事業、保育所保育士特別配置等事業、一時保育促進事業
- 幼稚園預かり保育事業
- 福祉医療費助成事業
- 出産育児一時金
- 児童手当・福祉年金事業
- 少子化対策・子育て支援事業
- 学力アップ教室

(3) 郷土愛を育む教育の推進

《現状と課題》

竜王町では、様々な体験活動を通じて「生きる力」を育むとともに、地域コミュニティ活動や子ども会、青年団などの団体への参加などを通じて、子どもたちの地域への愛着を高めています。将来的な定住やUターンを促進するため、引き続き、学力向上だけにとどまらない教育のさらなる展開が必要です。

《取り組みの方向性》

竜王町の子どもたちが、竜王で育ったことを誇りにしながら、社会でたくましく活躍することができるよう、社会環境の変化に対応できる力や職業観を育みます。また、子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や、学習機会の提供、教育環境等の充実を図ります。

【めざす姿】

竜王町で育った子どもたちが、大人になっても竜王町で住み続けたいと思えるような、愛着のあるまちとなっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
英語検定合格者割合(%)	67(H26度)	全受験生徒の60%以上
新規加入青年団員数(人)	20(H27度)	20

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
①キャリア教育の推進 子どもたちが健全な勤労観・職業観を身につけるとともに、本町におけるしごとへの関心を高められるよう、「チャレンジウイーク」など地域と連携した職業体験等の充実を図ります。また、英語教育の充実により、子どもたちの可能性を広げます。
②ふるさと教育の推進 将来のUターンを促進するため、郷土愛の醸成に向け、本町の歴史や文化、地域等について学ぶ機会の創出に努めます。
③「生きる力」の育成の推進 子どもたちが社会で大いに活躍することができるよう、学校・家庭・地域の連携のもと、本町ならではの学びの場の確保に努めます。
④学校給食の充実 子どもたちの健康管理とともに、地域への愛着を育むため、地域の食材を用いた安心・安全で作った学校の給食の提供や、生産者との交流機会の確保に努めます。

主な取り組み

⑤教育環境の充実

多様化する教育内容や教育方法等の変化に対応できるよう、ICT機器の充実など、授業環境や学校施設等の充実を図ります。

⑥地域を挙げた学校支援の推進

子どもが将来、地域で活躍し貢献していくことができるよう、子どもから大人まで、地域を挙げた学校への支援活動を推進します。

【関係課】産業振興課・学務課・生涯学習課・給食センター・公民館・図書館

町民に期待される役割

- 町内事業所においては、子どもたちの職業体験機会の創出、充実に協力します。
- 学校との連携による町の歴史や文化、食育等に関する学びの場の創出、講師や語り部としてのボランティア活動に参加します。

【主な事業】

- 中学生チャレンジウイーク事業
- 文化財普及啓発事業
- 田んぼの学校推進事業
- 学校支援地域本部事業

未来創生目標3 幸せな暮らしを創生する ～いつまでも安心して暮らせる活力あるまちづくり～

(1) 安心・安全な生活環境の確保

《現状と課題》

竜王町では、多数の天井川を有し、近年、台風による浸水などの被害が見られることから安心して暮らせるまちづくりのため、防災や減災に向けた対策が引き続き重要となります。また、地域安全パトロールやスクールガード、防犯灯のLED化など、地域との協働による防犯対策に取り組んでおり、特に子どもや高齢者などが犯罪被害に合うことがない環境作りが必要です。

《取り組みの方向性》

地域における防災力の向上を図るとともに、町民の健康づくりや公共交通の充実など、生活に不安を感じることなく、安心して生活できる生活環境を確保することで、誰もが生涯安心して暮らせるまちをめざします。

【めざす姿】

すべての町民が、不安を感じることなく、いつまでも安心していきいきと生活できる充実したまちとなっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
防災訓練参加者数	5,067(H27 度見込)	5,500
公共交通確保済み地区数(地区)	23(H26 度)	32

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
<p>①地域防災力の向上</p> <p>安心・安全な生活を守るため、引き続き、河川改修の早期実現を働きかけるとともに、町民自らが安全を守る活動の支援や水害に対する防災拠点の強化を図り、地域を挙げた防災力の向上に努めます。</p>
<p>②移動手段の確保</p> <p>町内の生活移動や通勤・通学時における利便性の向上のため、地域特性に応じた公共交通インフラの維持・充実に努めます。</p>
<p>③町民の健康づくりの推進</p> <p>いつまでも健康な状態で生活できるよう、子どもから高齢者までを対象にした、地域を挙げた健康づくりを推進します。また、高齢者のみならず高齢者を支える世代も安心して日々の生活が送れるよう高齢者支援の環境整備を進めます。</p>

主な取り組み
<p>④生活インフラの充実 快適な生活環境を維持するため、道路、上下水道等生活インフラを整備します。</p>
<p>⑤生活関連サービスのIT化の推進 快適で安心・安全な生活環境をつくるため、行政をはじめとした防災・生活関連サービスのIT化を推進します。</p>
<p>⑥見守り活動の推進 安心・安全で住み続けられるまちづくりのため、子どもや高齢者に対して、地域ぐるみの見守り活動を推進します。</p>

【関係課】 政策推進課・生活安全課・住民課・福祉課・健康推進課・建設計画課・上下水道課・学務課・生涯学習課

町民に期待される役割
<p>○地域の自主防災組織による避難訓練等の活動に参加します。 ○地域における健康づくりに関する教室やイベント等に参加します。 ○地域の福祉組織等が開催する高齢者に関する事業等に参加します。 ○地域における子どもや高齢者への見守り活動への理解を深めるとともに、できることから活動に参加します。</p>

【主な事業】

- 竜王北東部地区水防防災拠点事業
- 公共交通施策検討事業
- 特定健康診査等事業
- 健康づくり推進事業、健康増進事業、予防接種事業
- スポーツ推進委員活動事業、生涯スポーツ推進事業
- 町災害情報システム整備事業
- 竜王町防災拠点整備事業
- 少年補導員活動事業
- 社会参加促進助成事業
- 福祉有償運送助成事業
- 災害時要援護者支援事業

(2) 活気ある交遊機会の創出

《現状と課題》

竜王町では、自治会や子ども会、青年団等の団体活動が行われており、地域の交流機会を創出しています。一方で、少子高齢化を背景にこれらの団体への参加者が減少傾向にあることから、今後は、企業なども巻き込んだ新たな交流を生み出していくことも必要です。

《取り組みの方向性》

竜王町に関わりのある人や団体等との交流機会を設けるとともに、支援の充実を図ることで、地域の課題解決や活性化の取り組み、情報発信を通じてまちの魅力を広め、広く人が関わる地域主体の活気のあるまちづくりを推進します。

【めざす姿】

竜王町青年団をはじめとした本町に関わりのある人や団体によって協働のまちづくりが進められている、活気にあふれた明るいまちとなっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
竜王青年団加入者数(人)	202(H26 度)	220
地域コミュニティ計画策定率(%)	0(H26 度)	50

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
①まちに関わりのある人・団体の活動支援の充実 地域の若い力がまちづくりにおいて最大限に発揮できるよう、地域の若者による活動に対する支援の充実を図るとともに、交流拠点の整備に努めます。
②地域におけるコミュニティ活動の支援の充実 地域力が希薄化する中、地域特性に応じた持続可能なまちづくりを促進するため、自治会を中心とした地域によるコミュニティ活動への支援の充実を図ります。
③まちづくり活動の支援の充実 町民による自発的なまちづくりや、町を挙げた交流活動を促進するため、町民が主体となったまちづくり活動への支援の充実を図ります。
④生涯を通じた活躍機会の創出 子どもから高齢者まで、生涯を通じていきいきと生活し、活躍できるよう、地域の支え合いによる学びの場づくりや就労支援、生活支援、交流活動の充実を図ります。
⑤人材育成の推進 地域に必要な人材を地域自身が担うことができるよう、公民館をはじめ、地域におけるリーダーの育成を推進します。

【関係課】 政策推進課・総務課・福祉課・産業振興課・生涯学習課・公民館

町民に期待される役割

- 青年団の活動に参加し、まちの活性化に向けた魅力ある企画、実施を行います。
- 参加しやすい取り組みから、自治会やまちのコミュニティ活動に参加します。
- 主体性を持って地域課題に取り組む意識を育むため、社会的課題に関する学びの場や地域における交流機会に参加します。

【主な事業】

- 竜王若者交竜 RSNS（リアルなソーシャルネットワーク）拠点づくりプロジェクト
- 社会教育関係団体補助事業
- 青少年育成推進員設置事業
- 社会教育指導員設置事業
- コミュニティ支援事業
- まちづくり活動支援事業
- ふれあいプラザ生涯現役事業
- 地域福祉活動助成事業

(3) 移住・定住の促進

《現状と課題》

竜王町では、進学・就職をきっかけとした若者の流出が続いているとともに、企業寮からの退寮者が町外に流出しています。その要因の一つとして、賃貸集合住宅等、一人暮らしや結婚してまもない夫婦の住みたいと思える場所が少ないことが挙げられます。また、住まいの場としての魅力が十分に周知できていないことも考えられます。

《取り組みの方向性》

将来に向けた活気あるまちをつくるため、若者等の地元定着に向けた意識醸成や、移住を検討している人たちに対して町の情報を積極的に発信することで、移住の促進を図るとともに、地域へのひとの受け入れを円滑にするための取り組みを推進します。

【めざす姿】

町内外に関わらず、すべての人が竜王町の産業や住環境に興味を持ち、住みたい・住み続けたい・働きたいと思うような魅力的なまちとなっています。

【重要業績評価指標 (KPI)】

項目	基準値	目標値
町ホームページアクセス数	98,633(H26)	122,000
Uターン移住者数(人)	123(H26 度)	153

【実現に向けた取り組み】

主な取り組み
①タウンプロモーションの推進 まちの魅力をまちのイメージとして町内外に発信するため、効果的な発信手段の検討や地域が主体となった情報発信の仕組みづくりを推進します。
②空き家の流通促進 町内の空き家が優良ストックとして住宅市場で活用できるよう、地域との連携や所有者に対する意識醸成・情報提供に取り組みます。
③町有財産の活用 町民にとって魅力的な暮らしが実現されるよう、町民ニーズを反映し、町有地や公共施設等の有効活用を図ります。
④Uターンの促進 町出身者への効果的なプロモーションや住宅リフォーム助成等により、町出身者のUターンの増加を図ります。

主な取り組み

⑤新しい地域コミュニティづくり

誰もが参加できる緩やかな場づくりや話し合いの機会づくりなどにより、新規定住者と町民がともにまちづくりに取り組むことができる仕組みづくりを促進します。

【関係課】 政策推進課・総務課・産業振興課・建設計画課

町民に期待される役割

- 竜王町の暮らしやすさなどのまちの魅力を家族や知り合いに口コミで広げます。
- 町外で暮らす子どもなどへのUターンによる同居・近居を促します。

【主な事業】

- 定住促進住宅新築・リフォーム助成事業
- コミュニティ支援事業

おわりに

本戦略を確実に実行していくことで、間違いなく本町の人口は増加し、その後の人口減少をなだらかにすることができます。

しごとの面では、住宅が整備されることから、町内の企業や事業所への通勤時間が短くなり、生活に時間的な余裕が生まれます。このことにより、さらに充実した生活を送ることができるようになるため、結婚・出産・子育て・教育の希望をかなえることに近づきます。ひいては企業にとって企業活動の活性化につながり、ひとも企業も活力みなぎる力強いまちになります。

人の流れの面では、観光客が増加することで地域経済が潤うだけでなく、本町に興味を持つ機会が増えることで、移住のきっかけにつながります。その実現によって、様々な能力を持つ人材が全国から集まり、町内のそれぞれの地域で活躍することで、地域ごとに異なる魅力を持った、活気あふれるまちになります。

子育ての面では、子どもが増えることで子育て支援サービスや教育の質の向上、子育て・教育環境の充実につながります。また、子どもや親同士、地域との交流が活発になり、子どもの社会性の醸成につながるとともに、地域を挙げた子育て支援により、安心して子育てができ、さらなる出生数の増加につながるため、子どもの笑顔があふれるまちになります。

地域コミュニティの面では、町民同士の交流が盛んになることで、地域の支え合いが活発になり、自治会活動や見守り活動、防犯・防災活動、子育て支援活動、高齢者支援活動など町民が主体的に参画できる、みんなが活躍する温かいまちになります。また、生活に対する支援やサービスが充実し、住み心地の良いまちになります。

地方創生は単に人口を増加させることが目的ではなく、安定的にまちが持続することで、誰もが住み慣れた場所でいつまでも安心して暮らし続けられる地域を創ることです。

しかし、一定の歯止めをかけつつも、人口減少が進行する中において、その実現には非常に困難が予想されます。

そのため、総合戦略の実行にあたっては、町民や地域、企業、関係機関、団体、行政など、まちに関わるすべての主体が結集し、連携を強化しながら、「オール竜王」で課題の克服に取り組みます。